

○ 令和元年10月豪雨をはじめとする近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、椎津川水系において、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速していくために、以下の取り組みを実施していくことで、河口～JR内房線下流区間において年超過確率1/50規模、岡田橋～不入斗川合流点区間において年超過確率1/10規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河道拡幅、河床掘削、橋梁改築
- ・ 高潮堤整備
- ・ 樹木伐採、堆積土撤去
- ・ 護岸整備
- ・ 水田を活用した一時貯留（田んぼダム）
- ・ ため池やクリークの治水活用
- ・ 開発行為における雨水流出抑制施設等設置の指導

■ 被害対象を減少させるための対策

- ・ 立地適正化計画の見直し
(居住誘導区域への災害リスクの考慮)

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 洪水浸水想定区域図（公表済）
- ・ 危機管理型水位計、河川監視カメラ

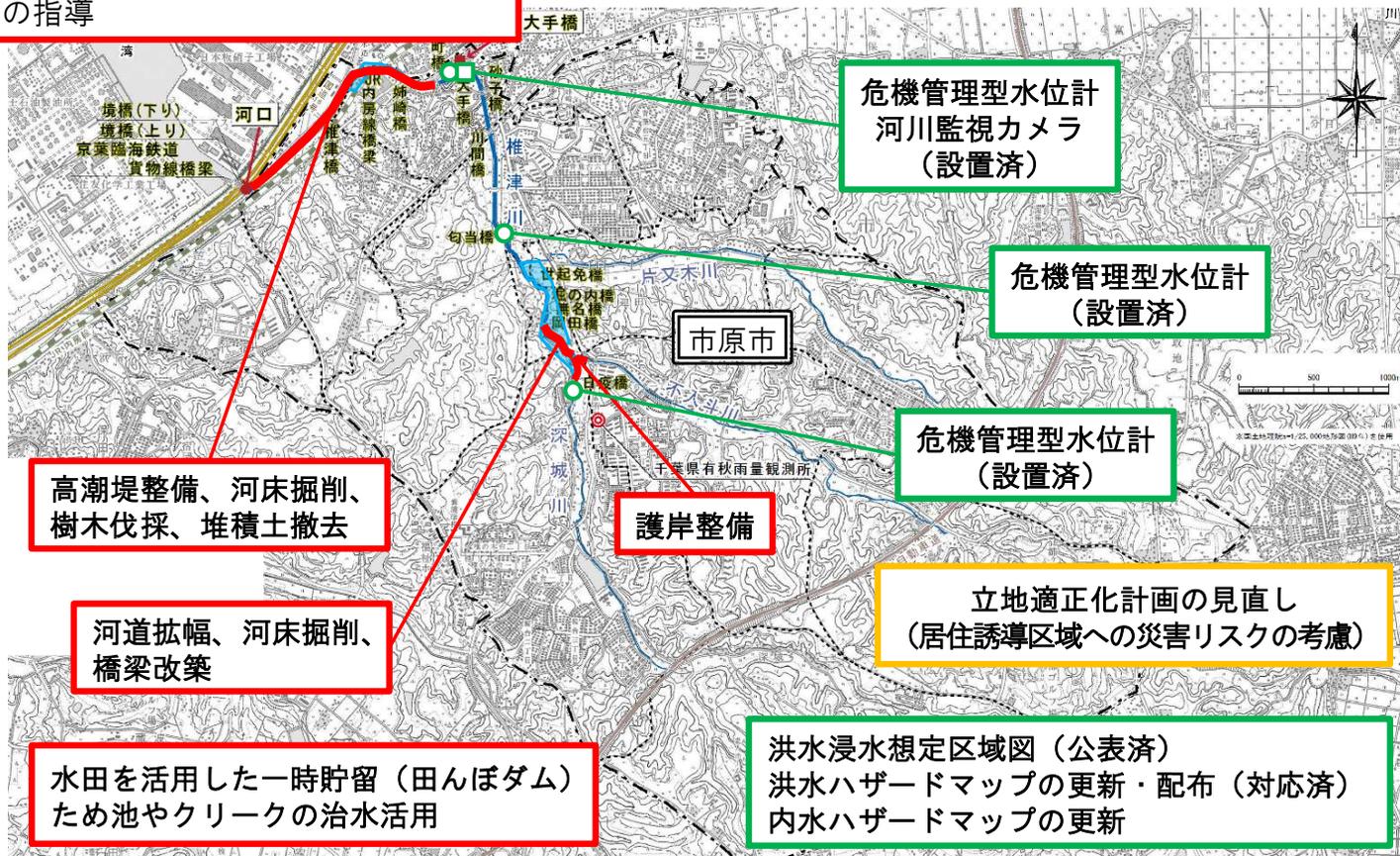
- ・ 水害対応タイムラインの活用
- ・ マイ・タイムラインの作成支援(実施済)
- ・ 洪水ハザードマップの更新・配布(対応済)
- ・ 内水ハザードマップの更新
- ・ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の推進
- ・ 業務継続計画（BCP）の策定
- ・ 地区防災計画の策定支援



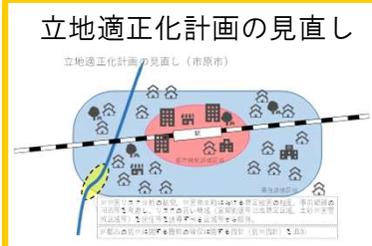
【平成12年】岡田橋付近浸水状況



【平成25年】岡田橋付近浸水状況



河道拡幅（岡田橋付近）



立地適正化計画の見直し



地区防災計画の策定支援（ワークショップ開催）

- 【凡例】
- 流域界
 - 河川改修
 - 危機管理型水位計
 - 河川監視カメラ
 - 浸水想定（計画規模1/50）

- 椎津川水系では、県、市が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川における対策として、椎津川の上流域（岡田橋～不入斗川合流点）で河道拡幅、河床掘削及び橋梁改築を推進するとともに、下流域（河口～横町橋）では樹木伐採及び堆積土撤去を実施する。
 - 【中期】引き続き、椎津川上流域（岡田橋～不入斗川合流点）の早期完成に向けて、河道拡幅及び河床掘削を推進する。
 - 【中長期】椎津川の下流域（河口～横町橋）で高潮堤整備及び河床掘削を推進し、椎津川全川の整備完了を目指す。また、深城川及び不入斗川では護岸整備を実施する。
- あわせて、水田を活用した一時貯留（田んぼダム）やため池等の治水利用を推進するとともに、マイ・タイムラインや地区防災計画の作成支援などのソフト対策を実施する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道拡幅、河床掘削、橋梁改築	千葉県	岡田橋～不入斗川合流点		河口～JR内房線
	高潮堤整備	千葉県			河口～横町橋
	樹木伐採、堆積土撤去	千葉県	河口～横町橋	定期的に見直し実施予定	
	護岸整備	市原市			深城川、不入斗川
	水田を活用した一時貯留（田んぼダム）	集落活動組織等	千葉県と市原市が実施主体に対し取組拡大を促進		
	ため池やクリーク等の治水活用	施設管理者等	千葉県と市原市が実施主体に対し取組拡大を促進		
	開発行為における雨水流出抑制施設等設置の指導	市原市	継続して実施		
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の見直し(居住誘導区域への災害リスクの考慮)	市原市	改定・運用	定期的に見直し運用	
	立地適正化計画の策定支援	千葉県	策定・見直し支援		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	危機管理型水位計、河川監視カメラ	千葉県、市原市	運用状況の検証・定期的に更新予定		
	水害対応タイムラインの活用	千葉県、市原市	運用実績の検証		
	マイ・タイムラインの作成支援(実施済)	市原市	継続して実施		
	洪水ハザードマップの更新・配布(対応済)	市原市	更新・配布		
	内水ハザードマップの更新	市原市	随時見直しながら実施		
	要配慮者利用施設の避難確保計画作成の推進	市原市	継続して実施		
	業務継続計画(BCP)の策定	市原市	随時見直しながら実施		
	地区防災計画の策定支援	市原市	継続して実施		

【事業費(R3以降の残事業費)】
 ■河川対策
 全体事業費 5.8億円
 河道拡幅、橋梁改築等

気候変動を踏まえた
 更なる対策を推進